おにぎり通信

２０１７年5月１３日（土曜）　四ツ谷おにぎり仲間

　こんにちは！私たちは毎週土曜日に、銀座・日比谷公園、東京駅周辺で生活されている方々を訪問しているボランティアグループです。

　明日は、母の日です。母の日は５月の第２日曜日にアメリカのアンナという女性が亡き母を思い教会でカーネーションを配ったことから、お母さんに感謝を伝える日として世界中に広まったそうです。
　童謡や演歌などの歌にもたくさんの母をテーマとしたものがあります。その数はとても多く、このことは、それぞれの人にそれぞれの母への思いがあることの現れなのではないでしょうか。

☆５月１日（月）の福祉行動報告　どなたもお見えになれませんでした。

次回の福祉行動：５月１５日（月）

朝８時３０分までに東京駅丸の内南口地下に集合してください。（※集合場所が北口から南口に変更になりました。ご注意ください。）蒸気機関車の車輪が展示してある前に「おにぎり通信」を持った者が待機していますので、声をおかけください。
病院に行きたい方や、体を休めたい方と一緒にご希望の福祉事務所まで、ボランティアが同行いたします。福祉行動は原則として毎週月曜日に行います(月曜日が祝日のときは火曜日)。福祉行動は参加されるそれぞれの方が、ご自身の希望をご自身の言葉でハッキリと伝えることにより成り立ちます。

最寄りの福祉事務所
中央区福祉事務所･･･中央区築地　1－1－1　中央区役所4階
千代田区福祉事務所･･･千代田区九段南1－2－1　3階

＜「国際児」の母、澤田美喜＞

みなさんは、澤田美喜という人をご存知でしょうか？

澤田美喜は第二次世界大戦の敗戦により、アメリカ人兵士と日本人女性の間に誕生した「混血児」救済を私財を投じ行った人物です。戦争直後の日本では肌の色が黒色系や白色系の生後間もない幼子が「棄てられる」という事件が多発しました。

この窮状を見るに見かねて、こうした子どもたちの<母>となり、これらの子どもたちのための<家>である、エリザベス・サンダース・ホームをつくったのが、澤田美喜です。彼女は、子どもたちから「ママちゃま」と呼ばれ、2000人以上と言われる子どもたちがこのホームから世界中に巣立っていきました。

このように書くと、彼女の仕事が順風満帆だったように思えてしまいますが、実際のところは、明日の子どもたちの食べ物がない、職員の給料が払えないといった危機は幾度も幾度もありました。また、ホームの乗っ取りが企てられたり、GHQに目をつけられ、事業が妨害されたりと、困難続きだったのが彼女のホームをはじめてからの人生でした。彼女は著書のなかで、「母たることは地獄のごとし・・・」という言葉を残しています。そのような困難続きの彼女の後半生でしたが、彼女が亡くなって37年経った今でも、一部卒業生たちによって、母の日はホームに集まるという習慣が続いています。

卒業生は、かつて「混血児」と呼ばれ、差別を受けてきましたが、彼女の「前を向いて歩きなさい、誇りをもって生きなさい」という教えを受け、差別をはねのけ自らの人生を歩み、一期生は70歳を超えました。

エリザベス・サンダース・ホームは血縁ではない、異なった「家族」の形を示してくれました。家族や母といった存在は、血縁だけによらず、何かしらの結びつきでもうまれうるものなのかもしれません。

おにぎりを包んでいるラップや読み終わった通信は放置せずに、ゴミ箱に入れるなどして片付けにご協力をお願いいたします。

おにぎりはかならずその日のうちにお召し上がり下さい。

受け取るのは、１人１個でお願いいたします。

四ツ谷おにぎり仲間　連絡先：080-7795-8535